

編集発行
 群馬大学医学部同窓会
 発行責任者 白倉 賢二
 編集責任者 大山 良雄
 〒371-8511
 前橋市昭和町三丁目39-22
 電話027-220-7861(ダイヤルイン)
 FAX(電話兼用)027-235-1470

刀城クラブホームページ <http://tojowww.dept.med.gunma-u.ac.jp/> 同窓会事務局メールアドレス tojoclub@ml.gunma-u.ac.jp



前橋花火大会 (2018年8月11日 医学部写真部提供)

目次

同窓会総会、全国支部長・支部代表者会議案内 2	クラス会だより 13～14
北関東医学会総会日程・プログラム 2～6	【著書紹介】
北関東医学会推薦講演抄録	後藤文夫著「高齢期の痛み」緩和術
消化器・肝臓内科学 講師 柿崎 暁 6	麻酔神経科学 教授 齋藤 繁 15
母校に望む⑩	【寄稿】
群馬県立心臓血管センター	養心寮の思い出
院長 内藤 滋人 7	松本 修一 16～17
学会報告	財団のページ 18～19
臨床試験部・臨床試験学 教授 中村 哲也 8	叙勲 20
病理診断学 教授 小山 徹也 8	学内人事 20
群馬手術手技研修センターのご紹介	役員会だより 20
総合外科学講座主任・外科診療センター長・	謹告 20
群馬手術手技研究センター長 調 憲 9	編集後記 20
支部だより 10～12	

群馬大学医学部同窓会 刀城クラブ総会及び全国支部長・支部代表者会議実施要項**全国支部長・支部代表者会議**

【日時】 令和元年10月19日(土) 15:30～

【場所】 群馬大学医学部刀城会館

【次第】

同窓会長挨拶

1. 支部の在り方について
2. その他

総 会

【日時】 令和元年10月19日(土) 17:00～

【場所】 群馬大学医学部刀城会館

【議題】

- | | |
|-------|------------------|
| 第1号議案 | 平成30年度事業報告について |
| 第2号議案 | 平成30年度会計決算報告について |
| 第3号議案 | 令和元年度事業計画について |
| 第4号議案 | 令和元年度会計予算について |
- その他
- 1) 地域医療貢献賞の表彰
 - 2) 推薦講演者への感謝状授与
 - 3) その他

懇 親 会

「総会」及び「全国支部長・支部代表者会議」による合同懇親会

【日時】 令和元年10月19日(土) 18:00～

【場所】 群馬大学医学部刀城会館ホールⅡ

【会費】 5,000円

第66回北関東医学会総会のご案内

【日時】

第1日 令和元年9月26日(木) 13:00～ 群馬大学医学部刀城会館

第2日 令和元年9月27日(金) 8:50～ 群馬大学医学部刀城会館

【特別講演】

日本内科学会認定総合内科専門医認定更新2単位

【特別講演・同窓会推薦講演・ワークショップ】

日本医師会生涯教育講座指定公開講座

【特別講演・ワークショップ】

群馬大学大学院保健学研究科指定大学院講義

第66回北関東医学会総会のご案内

第1日 令和元年9月26日(木)
群馬大学医学部刀城会館

【開会】午後1時00分

【ポスター展示】11:30～16:20

【特別講演Ⅰ】13:05～13:45

座長 常盤 洋子(群馬大院・保・看護学)
医療的ケア児の地域移行・地域生活を支える
金泉志保美(群馬大院・保・看護学)

【特別講演Ⅱ】13:45～14:25

座長 山田 正信(群馬大院・医・内分泌代謝内科学)
呼吸器病学研究から肺理学療法の実践に向けて
久田 剛志(群馬大院・保・リハビリテーション学)

【一般演題A(ポスター発表)】

セッション1 14:30～14:50

座長 金泉志保美(群馬大院・保・看護学)

1. Skypeを活用して開催した国際シンポジウムの
評価

—モンゴル国のリハビリテーションの発展を目指
して—

下田佳央莉¹、Bulganchimeg Sanjmyatav²、村野
万伊加³、坂本雅昭¹、外里富佐江⁴、森淑江¹、
Galan Khulan²、菊地千一郎¹、土屋謙仕¹、野口
直人⁵、越智貴子⁶、齋藤貴之¹(1 群馬大院・保
健学研究科)(2 Mongolian National University
of Medical Sciences)(3 みえ呼吸嚥下リハビリ
クリニック)(4 長野保健医療大学)(5 群馬
医療福祉大学)(6 群馬大・国際センター)

2. 女性中心の看護を基盤とした地域完結型看護に
おける母性看護専門看護師の実践報告

—脳疾患後遺症がある外国籍シングルマザーの育
児支援体制を調整した事例—

深澤友子¹、吉澤実芳²、島名梨沙³、常盤洋子¹(1
群馬大院・保・看護学)(2 JA長野厚生連佐
久総合病院佐久医療センター)(3 群馬大医・附
属病院・看護部)

3. 高齢者向け住まいにおけるACPを支援する
EOLCパス原案の評価

吉田恭子¹、梨木恵実子²、内田陽子²、戸谷幸佳³(1
群馬大医・保健学科)(2 群馬大院・保・看護
学)(3 群馬県立県民健康科学大学)

4. People-centered Care in Mongolia

Oyunchimeg Erdenee and Hiroshi Koyama
(Department of Public Health, Gunma University
Graduate School of Medicine)

セッション2 14:55～15:15

座長 高橋 綾子(群馬大医・附属病院・核医学)

5. 認知課題の反復遂行に伴う複数の課題間におけ
る脳活動の馴化の違いについて

—ウェアラブル近赤外線スペクトロスコピーを用
いた研究—

筒井信貴¹、下田佳央莉¹、土屋謙仕¹、三分一史
和²、西多昌規³、菊地千一郎¹(1 群馬大院・保
リハビリテーション学)(2 統計数理研究所 モ
デリング研究系)(3 早稲田大学スポーツ科学学
術院)

6. 全身性強皮症患者における過活動膀胱の合併に
ついて

関口明子¹、茂木精一郎¹、中山紘史²、関根芳岳²、
鈴木和浩²、石川治¹(1 群馬大院・医・皮膚科学)
(2 群馬大院・医・泌尿器科学)

7. 機能的脳神経外科領域におけるCoMBI法の活用

飯島圭哉^{1,2}、石井希和²、多鹿友喜³、岩崎真樹¹、
好本裕平²(1 国立精神・神経医療研究センタ
ー病院 脳神経外科)(2 群馬大院・医・脳神経
外科学)(3 群馬大院・医・機能形態学)

8. 当院で経験したスキー・スノーボード外傷の検
討

大嶋清宏^{1,2}、村田将人^{1,2}、青木誠^{1,2}、神戸将
彦^{1,2}、中島潤^{1,2}、澤田悠輔^{1,2}、一色雄太^{1,2}、
市川優美^{1,2}、福島一憲^{1,2}、荒巻裕斗^{1,2}、小和
瀬桂子^{1,3}、田村遵一^{1,3}(1 群馬大医・附属病院・
救命・総合医療センター)(2 群馬大院・医・救
急医学)(3 群馬大院・医・総合医療学)

セッション3 15:20～15:45

座長 高橋 昭久(群馬大・重粒子線医学研究セン
ター)

9. 化学療法における食品成分の影響について：フ
ェロトーシスと含硫化合物

永井聖也¹、瀧川雄太¹、鳥居征司²、輿石一郎¹(1
群馬大院・保・生体情報検査科学)(2 群馬大・
食健康科学教育研究センター)

10. 脂肪酸伸長酵素Elovl6が心肥大および心臓線維
化に及ぼす影響

忠木紗耶香¹、松井弘樹¹、須永浩章^{1,2}、古川希²、
磯達也²、小坂橋紀通²、松坂賢³、島野仁³、倉林
正彦²、横山知行¹(1 群馬大院・保・生体情報
検査科学)(2 群馬大院・医・循環器内科学)(3
筑波大学医学医療系 内分泌代謝・糖尿病内科)

11. 分泌顆粒蛋白質フォグリンによる膵β細胞増殖
の制御

久保田知里^{1,2}、竹内利行¹、小林雅樹³、北村忠
弘³、鳥居征司¹(1 群馬大・食健康科学教育研
究センター)(2 (独)日本学術振興会特別研究
員RPD)(3 群馬大・生調研・代謝シグナル解
析分野)

12. 魚肉ソーセージ切片と画像解析を組み合わせた
検量線作製の試み

守谷駿一¹、廣江珠希¹、羽鳥瑞歩¹、藤森美沙¹、
柿澤仁美²、小林さやか¹、西島良美¹、齊尾征直¹(1

群馬大院・保・生体情報検査科学) (2 群馬大
医・保健学科)

13. G蛋白質共役型受容体APJに対するバイアス型
アゴニストは酸化ストレス障害を抑制して褥瘡の
発生を予防する
山崎咲保里、茂木精一郎、関口明子、内山明彦、
石川治 (群馬大院・医・皮膚科学)

セッション4 15:50~16:20

座長 横尾 英明 (群馬大院・医・病態病理学)

14. 低温誘導性SIRP α チロシンリン酸化に対する
SH基修飾剤の作用
川崎穰二、飯野美香、神宮大輝、渡辺佑美、茂田
井彩香、浦野江里子、橋本美穂、大西浩史 (群馬
大院・保・生体情報検査科学)
15. 組織局所中結合型イオウの測定法の確立
高田伊純、関根虎太郎、永井聖也、輿石一郎 (群
馬大院・保・生体情報検査科学)
16. なぜ亜鉛欠乏状態では褥瘡が発生しやすいの
か?—亜鉛欠乏による褥瘡発生機序の解明—
中村英玄^{1,2}、茂木精一郎¹、関口明子¹、牧口貴
哉²、横尾聡²、小川陽一³、川村龍吉³、石川治¹ (1
群馬大院・医・皮膚科学) (2 群馬大院・医・
口腔顎顔面外科学・形成外科学) (3 山梨大学医
学部皮膚科学)
17. DNA損傷修復応答に関与するDNAポリメラー
ゼPOLQとPOLHの多発性骨髄腫における発現
須永征伸¹、小田司³、山根瑛子¹、石原領¹、村上
有希¹、浅尾優太¹、武井寿史²、小林宜彦²、大崎
洋平²、松本守生⁴、後藤七海¹、笠松哲光¹、清水
啓明²、石崎卓馬²、小磯博美²、滝沢牧子²、入内
島裕乃²、関上智美⁵、横濱章彦⁵、塚本憲史⁶、増
田裕太¹、栗田真彩¹、相馬佳奈¹、橋本菜央¹、齋
藤貴之¹、半田寛² (1 群馬大院・保・生体情報
検査科学) (2 群馬大院・医・血液内科学) (3
群馬大・生調研・遺伝子情報分野) (4 国立病
院機構渋川医療センター 血液内科) (5 群馬大
医・附属病院・輸血部) (6 群馬大医・附属病院・
腫瘍センター)
18. 滑走式と回転式マイクロトームにおける薄切時摩
擦熱の検討
廣江珠希¹、羽鳥瑞歩¹、守谷駿一¹、柿澤仁美²、
齊尾征直¹
(1 群馬大院・保・生体情報検査科学) (2 群
馬大医・保健学科)
19. リポキシゲナーゼによるPPARsアゴニスト「オ
キソ脂肪酸」の産生機序について
瀧川雄太、富澤賢太郎、輿石一郎 (群馬大院・保・
生体情報検査科学)

【一般演題B (ポスター発表)】

セッション5 14:30~15:00

座長 池田 佳生 (群馬大院・医・脳神経内科学)

20. 低温誘導性SIRP α チロシンリン酸化の分子メカ

ニズム解析

飯野美香、神宮大輝、川崎穰二、富山飛鳥、茂田
井彩香、浦野江里子、橋本美穂、大西浩史 (群馬
大院・保・生体情報検査科学)

21. 培養神経細胞の樹状突起に沿ったドレブリンク
ラスターに対する神経伝達物質や化合物等の効果
を評価するハイコンテンツイメージング解析法の
開発
山村真伊、白尾智明、花村健次 (群馬大院・医・
神経薬理学)

22. Characterization of GAD65/GAD67 Double
Mutant Rats during Embryonic Development
Weiru Jiang¹、Toshikazu Kakizaki¹、Kazuyuki
Fujihara¹、Shigeo Miyata¹、Yue Zhang¹、
Takashi Suto²、Daiki Kato²、Shigeru Saito²、
Koji Shibasaki³、Yasuki Ishizaki³、Yoshiki
Miyasaka⁴、Tomoji Mashimo⁴ and Yuchio
Yanagawa¹ (1 Department of Genetic and
Behavioral Neuroscience, Gunma University
Graduate School of Medicine) (2 Department
of Anesthesiology, Gunma University Graduate
School of Medicine) (3 Department of
Molecular and Cellular Neurobiology, Gunma
University Graduate School of Medicine) (4
Institute of Laboratory Animals, Graduate School
of Medicine, Osaka University)

23. 先天奇形症候群の前脳神経細胞特異的な病態モ
デル動物の作製
森谷晃¹、井上晋一²、青木洋子²、大西浩史¹ (1
群馬大院・保・生体情報検査科学) (2 東北
大学大学院医学系研究科 遺伝医療学)

24. Transplantation of iPS-Derived Vascular
Endothelial Cells Ameliorates Ischemic
Demyelinating Lesion in White Matter
Bin Xu¹、Masashi Kurachi¹、Hiroya Shimauchi-
Ohtaki²、Yuhei Yoshimoto² and Yasuki Ishizaki¹
(1 Department of Molecular and Cellular
Neurobiology, Gunma University Graduate School
of Medicine) (2 Department of Neurosurgery,
Gunma University Graduate School of Medicine)

25. BRAF V600E変異、ATRX変異、CDKN2A/B両ア
リル欠失を呈し予後良好に推移するhigh-grade
astrocytoma 4例の臨床病理学的検討
村上千明¹、吉田由佳¹、松村望¹、信澤純人¹、伊
古田勇人²、横尾英明¹ (1 群馬大院・医・病態
病理学) (2 群馬大医・附属病院・病理部)

セッション6 15:05~15:35

座長 齋藤 貴之 (群馬大院・保・生体情報検査科学)

26. 末梢血幹細胞採取におけるSphingosine-1-
phosphateの関与
橋本菜央¹、横濱章彦²、栗田真彩¹、浅尾優太¹、
須永征伸¹、相馬佳奈¹、山根瑛子¹、石原領¹、村
上有希¹、後藤七海¹、笠松哲光¹、半田寛³、齋藤

- 貴之¹ (1 群馬大院・保・生体情報検査科学) (2 群馬大医・附属病院・輸血部) (3 群馬大院・医・血液内科学)
27. 次世代シーケンサーを用いた原発性マクログロブリン血症およびIgG産生型リンパ形質細胞性リンパ腫における遺伝子変異の解析
粟田真彩¹、横濱章彦²、橋本菜央¹、後藤七海¹、笠松哲光¹、齋藤貴之¹、半田寛³、塚本憲史⁴ (1 群馬大院・保・生体情報検査科学) (2 群馬大医・附属病院・輸血部) (3 群馬大院・医・血液内科学) (4 群馬大医・附属病院・腫瘍センター)
28. Th1サイトカイン遺伝子多型は慢性免疫性血小板減少症 (cITP) の重症度に影響する
相馬佳奈¹、後藤七海¹、笠松哲光¹、須永征伸¹、山根瑛子¹、村上有希¹、石原領¹、粟田真彩¹、半田寛²、齋藤 貴之¹ (1 群馬大院・保・生体情報検査科学) (2 群馬大院・医・血液内科学)
29. 骨髄異形成症候群の一患者におけるABO式血液型抗原量低下の原因解明
早川輝¹、佐野利恵¹、高橋遥一郎¹、小湊慶彦¹、半田寛²、丸橋隆行³、横濱章彦³ (1 群馬大院・医・法医学) (2 群馬大院・医・血液内科学) (3 群馬大医・附属病院・輸血部)
30. 血管肉腫の腫瘍増殖における分泌蛋白質MFG-E8の役割
藤原千紗子、茂木精一郎、安田正人、石川治 (群馬大院・医・皮膚科学)
31. 多発性骨髄腫におけるc-MAF, MAFB発現とp53山根瑛子¹、小田司³、須永征伸¹、村上有希¹、石原領¹、浅尾優太¹、武井寿史²、小林宜彦²、大崎洋平²、松本守生⁴、後藤七海¹、笠松哲光¹、清水啓明²、石崎卓馬²、小磯博美²、滝沢牧子²、入内島裕乃²、関上智美⁵、横濱章彦⁵、塚本憲史⁶、増田裕太¹、粟田真彩¹、相馬佳奈¹、橋本菜央¹、齋藤貴之¹、半田寛² (1 群馬大院・保・生体情報検査科学) (2 群馬大院・医・血液内科学) (3 群馬大・生調研・遺伝子情報分野) (4 国立病院機構渋川医療センター 血液内科) (5 群馬大医・附属病院・輸血部) (6 群馬大医・附属病院・腫瘍センター)
- セッション7 15:40~16:10
座長 富田 治芳 (群馬大院・医・細菌学)
32. Inhibitory Effect of Botulinum Toxin B on Bleomycin-Induced Skin Fibrosis in Mice: Possible Regulation of Oxidative Stress
Hritu Baral, Sei-ichiro Motegi, Akiko Sekiguchi, Akihiko Uchiyama and Osamu Ishikawa (Department of Dermatology, Gunma University Graduate School of Medicine)
33. Botulinum Toxin B Injection Inhibits Imiquimod-Induced Psoriasis-like Dermatitis via the Regulation of Neuroimmune System
Syahla Nisaa Amalia, Sei-ichiro Motegi, Chisako Fujiwara, Akiko Sekiguchi, Akihiko Uchiyama and Osamu Ishikawa (Department of Dermatology, Gunma University Graduate School of Medicine)
34. 骨吸収抑制薬関連顎骨壊死・骨髄炎 (ARONJ) における画像診断学的評価を用いたリスク因子の検討
藤田 慶恵 (群馬大医・附属病院・臨床研修センター)
35. 尿路病原性大腸菌 (uropathogenic E. coli: UPEC) の病原性発現に関与する二成分制御系の解析
三村健介^{1,2}、平川秀忠¹、秋山英雄²、富田治芳^{1,3} (1 群馬大院・医・細菌学) (2 群馬大院・医・眼科学) (3 群馬大院・医・薬剤耐性菌実験施設)
36. バイオイメージングによる慢性期Chagas病の炎症動態解析
矢澤祐典¹、鬼塚陽子¹、番場みのり¹、村田涼子¹、瀬戸絵里²、嶋田淳子¹ (1 群馬大院・保・生体情報検査科学) (2 群馬大院・医・教育研究支援センター)
37. 滑走式ミクロトームの型の違いと標本薄切に与える影響について
羽鳥瑞歩¹、守谷駿一¹、藤森美沙¹、柿澤仁美²、廣江珠希¹、小林さやか¹、西島良美¹、齊尾征直¹ (1 群馬大院・保・生体情報検査科学) (2 群馬大医・保健学科)

第2日 令和元年9月27日 (金)
群馬大学医学部刀城会館

【ポスター展示】 8:50~16:25

【同窓会推薦講演】 8:50~9:30

座長 浦岡 俊夫 (群馬大院・医・消化器・肝臓内科学)

肝疾患関連死の減少を目指して ―基礎と臨床から―

柿崎 暁 (群馬大院・医・消化器・肝臓内科学)

【特別講演Ⅲ】 9:30~10:10

座長 和田 直樹 (群馬大院・医・リハビリテーション医学)

超高齢社会と整形外科

筑田 博隆 (群馬大院・医・整形外科)

【ワークショップ】 10:10~11:40

世界で活躍するグローバル人材の育成

座長 齋藤 貴之 (群馬大院・保・生体情報検査科学)

コロンビア共和国サバナ大学との15年間の学生交流

鯉淵 典之 (群馬大院・医・応用生理学)

グローバルフロンティアリーダー (GFL) 育成プログラムについて

村上 正巳 (群馬大院・医・臨床検査医学)
オーストラリア・グリフィス大学との交流によるグローバル人材の育成

岡 美智代 (群馬大院・保・看護学)
保健医療人材育成に向けたWHOとの共同活動について

李 範爽、篠崎 博光 (群馬大院・保健学研究科)
<特別発言>

Enkhgerel Nyamdavaa (Enhuush)
Graduate Student, Department of Ophthalmology,
Gunma University Graduate School of Medicine

【評議員会・総会】 12:10 ~ 13:15
群馬大学医学部刀城会館

【奨励賞受賞講演】 13:30 ~ 14:30
座長 平井 宏和 (群馬大院・医・脳神経再生医学)
ウイルスベクターによる生体脳への遺伝子導入

篠原洋一郎 (群馬大医・附属病院・眼科)
座長 横尾 英明 (群馬大院・医・病態病理学)

脳腫瘍の病理と分子遺伝学的解析
松村 望 (群馬大院・医・病態病理学)

座長 櫻井 麗子 (群馬大医・附属病院・腫瘍センター)

進行・再発小細胞肺癌における治療効果予測因子・予後因子の探索研究

三浦 陽介 (群馬大医・附属病院・呼吸器・アレルギー内科)

【優秀論文賞受賞講演】 14:35 ~ 14:55
座長 横尾 英明 (群馬大院・医・病態病理学)
Positron Emission Tomography/Computed Tomography before Treatment as a Predictor of ⁹⁰Y-Ibritumomab Tiuxetan Response

Ryan Yudistiro (Department of Diagnostic Radiology and Nuclear Medicine, Gunma University Graduate School of Medicine / Department of Nuclear Medicine, MRCCC Siloam Hospital, School of Medicine of Universitas Pelita Harapan)

【特別講演Ⅳ】 15:00 ~ 15:40
座長 倉林 正彦 (群馬大院・医・循環器内科学)
環境記憶のエピゲノム機構

稲垣 毅 (群馬大・生調研・代謝エピジェネティクス分野)

【特別講演Ⅴ】 15:45 ~ 16:25
座長 佐伯 浩司 (群馬大院・医・消化管外科学)
消化管がんに対する内視鏡治療の進歩と今後の展望
浦岡 俊夫 (群馬大院・医・消化器・肝臓内科学)

第66回北関東
医学会総会

同窓会推薦講演

肝疾患関連死の減少を目指して —基礎と臨床から—

群馬大学大学院医学系研究科内科学講座
消化器・肝臓内科学

講師 柿崎 暁 (平2卒)



C型肝炎ウイルスが発見された1989年(平成元年)の翌年に大学を卒業して以来、肝疾患の診療・研究を中心に過ごして来ました。今回、同窓会推薦講演の機会を頂きましたが、卒業時の刀城会賞(同窓会賞)の寄稿文で、卒業1年目に経験した肝硬変・食道静脈瘤破裂症例のことを書いたことが思い出されます。当時、若くして亡くなられる肝臓病患者は少なくなく、肝硬変・肝癌死を減らすべく精進して参りました。平成の時代と共にC型肝炎治療成績は目覚ましく向上し、近年は直接作用型抗ウイルス剤(DAA)により90%台後半のウイルス駆除が得られるようになり、右肩上がりであった肝癌死は減少

に転じています。

治療成績を向上させる一方で、肝炎受検・受診・受療の啓発活動を積極的に行いました。群馬県肝炎対策推進計画の策定に加わり、行政と協力し県内の肝炎対策を着実に進めることが出来たと考えます。C型肝炎治療、肝硬変・肝癌死の減少に寄与出来た平成時代は、研修医当時に抱いた思いの一部を晴らすことが出来ました。一方、近年、生活習慣病を背景に非アルコール性脂肪肝炎(NASH)が急増しています。C型肝炎から比べると発癌率は低いですが、罹患患者数が圧倒的に多く、令和時代の肝硬変・肝癌対策の課題であると言えます。

研究面は、核内受容体と肝疾患の関連を中心に行って来ました。肝臓の薬物代謝酵素を制御する核内受容体CARは、薬物代謝以外でも腫瘍や炎症に関与しており、遺伝子改変マウスを用いてNASHの病態や肝発癌との関連を研究して来ました(Gut 2007; 56: 565-74, Carcinogenesis 2011; 32: 576-83)。

肝疾患関連死の減少を目指して行ってきたC型肝炎・NASHに対する取り組みを臨床・基礎研究の両面から講演させて頂きます。

母校に望む ⑦〇

桃李もの言わざれども、 下自ずから蹊を成す。

群馬県立心臓血管センター
院長 内藤 滋人 (昭58卒)



私は、昭和58年の群馬大学医学部卒業です。学生時代から心臓への関心が強く、循環器内科医を目指し、群馬大学第2内科(村田和彦教授)に入局しました。

当時母校に残ることは非常に重要であり、初期の臨床医学を学生時代から部活や授業などで苦楽を共にした同門の先輩方から学んでいくことは、言葉では表せない価値があると考えました。

私の専門は循環器病の中でも不整脈です。心不全や脳梗塞に関連する心房細動という不整脈に興味を持ち、そのカテーテルアブレーション治療に力を注いできました。

心房細動との出会いは、昭和62年からお世話になった朝日生命成人病研究所で、藤井潤前所長のご指導のもと、心房細動の病態生理や脳塞栓との関連を、膨大な心房細動の心電図記録をもとに研究したことでした。

平成元年に群馬に戻った後に、群馬県立心臓血管センターの谷口興一元院長と大島茂前院長の計らいで、土浦協同病院の家坂義人前院長の元で不整脈の研修をし、その後現筑波大学教授の野上昭彦先生と不整脈治療を行ってきました。

心房細動のカテーテルアブレーション治療の幕開けとして衝撃的であったのが、平成10年にボルドー大学のHaissaguerre教授による心房細動の発症メカニズムの発表であり、何と心房細動は肺静脈からの興奮によって引き起こされるというものでした。私は翌平成11年にボルドー大学に赴き、心房細動のアブレーションを学んだ後、本邦における発展に微力ながら貢献してきました。現在心房細動アブレーションは確立し、ガイドライン上もclass IIに認められたことは、私にとってはこの上ない喜びであります。

群馬県立心臓血管センターにおけるカテーテルアブレーションの症例数は、現在全国1位を誇っています。これも同門会の先生方との病診、病病連携を介しての賜物と大変感謝しています。

私の座右の銘は、「桃李もの言わざれども、下自ずから蹊を成す(桃李成蹊)」です。史記の李將軍の言葉であり、桃や李(すもも)は何も言わないが、

美しい花や果実にひかれて人が集まり、その下には自然に蹊(みち)ができる。すなわち、徳望のあるところには自然に人が集まることをいいます。

朝日生命成人病研究所、土浦協同病院、ボルドー大学はいずれも、まさに桃李の中であり、各地から研修のドクターがたくさん訪れていました。

私も微力ながら、不整脈を志す若いドクターが集まり、修練し、技を磨きける場を提供していきたいと考えてきました。まだ道半ばではありますが、不整脈部門には、全国各地から不整脈を勉強するため、これまで総勢80名を超える若手の臨床医が集っています。

平成30年4月より、群馬県立心臓血管センターの院長を拝命されました。当センターは、「患者本位の医療」という理念のもとに、心血管医療の最先端治療を究め、患者さんに信頼される心疾患医療の砦となることを目標にしています。

近年ではハイブリッド手術室を利用して、経皮的動脈弁置換術(TAVR)や大動脈ステント、感染リード除去やリードレスペースメーカの植込みなども行っており、日夜全職員一丸となって頑張っています。また県内唯一の補助人工心臓の植込み施設であるとともに、心臓リハビリも自慢のリハビリパークやリハビリ施設を用いて積極的に行っています。今後も倉林正彦教授をはじめ、同門の先生方と連携し、群馬の心疾患医療の発展に貢献したいと考えています。

現在群馬県は、将来の医師の確保が大変懸念されています。その中でも専門医制度の導入により、群馬大学附属病院の役割は非常に重要です。

最先端医療は日進月歩の進歩を遂げており、それらを習得し、そして患者さんに安全に提供し、さらには後進に伝承していくのは至難の作業になります。私は、それぞれの技術をその専門のドクターが習熟するのみならず、医療安全面を含め、わかりやすく教えて後進に伝承していくところにのみ、桃李の花や実が結ぶ、素晴らしい環境になるものと考えています。そこには個人の排他主義や利己的な考えは不要です。群馬大学の同門会とも一致団結して、群馬県内のみならず、他県からも医師が桃李に誘われて集うようになってほしいと思います。

群馬大学附属病院は今春特定機能病院を、そして今夏高度がん診療拠点病院の再認定を受け、着実に再整備の道を歩み続けています。今後も医療安全を第一とした最新の診療体制の構築と若き有能な医療人の育成に尽力し、たわわな桃李の果実が実を結ぶことを切に願うとともに、微力ながら私自身も応援していきたいと考えています。

学会報告 (同窓会補助)

第4回 日本臨床薬理学会
関東・甲信越地方会 ご報告ご支援へのお礼臨床試験部長・臨床試験学
教授 中村 哲也 (昭57卒)

令和元年5月18日(土)に、高崎シティーギャラリーにて、第4回 日本臨床薬理学会 関東・甲信越地方会を開催いたしました。

臨床薬理学会は、医薬品にまつわる様々な課題を扱います。私は、2000年頃から治験業務の関わりで学会に参加するようになりました。会員になってみますと刀城クラブの先輩方が数多く活躍されていることを知りました。大分大学の副学長を務められた大橋京一先生や愛媛大学臨床薬理学教授だった野元正弘先生など、大変よく面倒を見て下さり、大分や愛媛に何度か足を運ぶうちに、次第にまじめに取り組むようになりました。野元先生のお勧めで臨床薬理学会専門医まで頂戴することになり、良く分からずに先輩の仰せの通りしているうちに、すっかり浸かってしまった部活のような成り行きです。学生の頃、私は卓球部でしたが、4年学年が上の野元先生は、空手部で同じ練習場で練習をしており、当時お話しする機会こそなかったのですが、真剣に空手に取り組む野元先生の姿を良く覚えていて、臨床薬理学会で20数年ぶりにお会いしたときに、当時の練習場のことなど思い出し、大変懐かしく有り難く感じました。今回の地方会会長を仰せつかったことを野元先生にお話すると、私が思った以上に大喜びして下さい、改めて感謝の気持ちを抱いた次第です。

さて学会は、1日だけの小規模なものでしたので、思いっきり内容を吟味しました。講演1には、薬剤部長の山本康次郎先生に「医薬品安全管理責任者について」、講演2には、医薬品医療機器総合機構の大山善昭先生(平14卒)に「再生医療等製品の薬事開発に係る規制と早期実用化に向けた取組み」、講演3には、国立成育医療センター臨床研究センターの小林徹先生(平9卒)に「地方から世界に向けたエビデンス発信：川崎病を例に」でご講演頂きました。大橋先生や野元先生のように刀城クラブの臨床薬理学の流れをつなぐ役割も果たさなければと思った1日でした。ご支援を頂いた刀城クラブの先生方に心より感謝申し上げます。

学会報告 (同窓会補助)

第72回
群馬臨床細胞学会報告病理診断学
教授 小山 徹也 (昭59卒)

日本臨床細胞学会群馬県支部は、昭和56年(1981年)に発足致しました。昭和48年に発足した研究会が日本臨床細胞学会からの支部発足の要請に応じて発展的に改組したものですから、すでに40年以上の歴史があります。支部発足に至る沿革の詳細は、支部会誌NO. 1(1984. 4)を見ると、巻頭言(春風：乾純和支部長)、支部発足の歩み(群馬県における細胞診の歩み：城下尚群大中検副部長)のなかにありますが、こういった方々の並々ならぬご尽力があったと推察されます。今は群馬臨床細胞学会と名称変更しました。近代細胞診断学は1928年有名なPapanicolaou博士により子宮頸部の擦過細胞診に始まり、体腔液、喀痰さらにリンパ節、甲状腺などの穿刺吸引細胞学へとその対象臓器・採方法が広がりました。現在では、侵襲の少ない、信用のおける診断方法として、病理や産婦人科医などの細胞診指導医と細胞検査士(検査技師)のペアで診断を行います。その意味で他職種連携のもっとも典型的な例と言えます。

筆者は1984年から7年間中央検査部におり、初期の時代の群馬県支部会で細胞診断学を学びましたが、この度同窓会のご支援を受け、本年7月6日、刀城会館で第72回学術集会を開催しました。前回支部会を開催したのは、たしか記憶では20年ぐらい前です。その時は細胞診断学を世に広めた現杏林大学名誉教授坂本穆彦先生にご講演をお願いしました。今回もその後任である同大学の菅間博教授に「甲状腺細胞診の限界と未来」としてお願いしました。特に福島原発事故と甲状腺発癌に関して多くの関心が集まっています。もう1つの講演は本学医療の質・安全学講座小松康宏教授の「細胞診における医療の質と安全」という実にタイムリーな話題でした。幸い参加者も90名近く、懇親会ではジャズ研の演奏もあり盛会でした。同窓会諸先生も、是非細胞診断の実際に興味を持たれることを望みます。なお、この会は県の補助であるがん検診細胞診・組織診従事者講習会と並行して開催されたことを申し添えます。

群馬手術手技研修 センターのご紹介

総合外科学講座主任
外科診療センター長
群馬手術手技研修センター長

調 憲 (特別会員)



群馬手術手技研修センター長を仰せつかっております総合外科学講座肝胆膵外科分野の調憲でございます。この4月1日に発足いたしましたセンターについてご紹介を申し上げます。群馬手術手技研修センターは篤志献体を用いた(手術手技の)研修センターです。医療技術を高める環境を整えるために、群馬大学医学部に設置されました。献体に生前同意頂いた方のご遺体で手術の修練や新たな手技や医療機器の開発を行います。献体と言えばホルマリン固定されたご遺体を用いる学生の解剖実習を思い浮かべられることと思いますが、ご遺体に特殊な固定法を施すことで、生前に近い状態で修練が可能となります。群馬県はこの献体についての県民の意識が極めて高い県であり、1500名を超える方々に献体のご登録をいただいていると聞いております。

献体を用いて実際の手術に近い状況で技術を習得し、医療の安全性向上につなげる手術の研修施設は県内で初めてです。大学のみならず群馬県内の医師や医師以外のメディカルスタッフも医師と共に利用できるようにしたいと考えております。

献体を申し出ていただいた皆様の篤志に応えるべく、ご遺体へは尊厳を持って接することが必須であり、献体でしかできない研修でなければなりません。したがって講習を行うには1回ごとに学内の倫理委員会の承認や講習を受けていただくことが必要で、終了後は研修内容を日本外科学会に報告することとなっております。

従来、手術手技の修練はシミュレーターを用いたドライラボや大型の動物を用いて行われてきました

が、体の構造が人間と異なるため、技術習得に難しい面があります。世界的にはこのような施設は多くありますが、国内では整備が進んでいませんでした。厚生労働省は、献体による修練施設の整備を全国で進める方針です。

群馬大の研修センターには田村遵一病院長のご高配により石井範洋助教を配置することができました。村上正巳教授がセンター長を務められる、附属病院地域医療研究・教育センター所属となります。資金面では厚生労働省や群馬県の補助金に加えて平塚浩士学長や石崎泰樹医学部長などの全面的なバックアップにより手術台などを備えた専用の部屋を確保することができ、センター発足は実現しました。

発足準備にあたっては田中和美先生をはじめとした地域医療研究・教育センターの皆様、部屋の確保・整備には小湊慶彦教授、松崎利行教授など基礎の先生方にご高配をいただきました。また、このセンターの両輪ともいえる献体の準備については岩崎宏英教授をはじめとした機能形態学の教室の皆様にも多大なるご尽力をいただいていることを申し添えます。

この手術手技研修センターは先進医療の安全性を高めていく上で、大きな役割を果たすものと考えます。さらにはスキルラボセンターとともに群馬県の外科系医師の手術手技の向上に大きな力を発揮するものと期待しております。



群馬手術手技研修センターの内観。2台の手術台を備えている。

支 部 だ よ り

刀城会クラブ神奈川支部 総会報告(平成30年度)

神奈川支部長 高橋 正純 (昭58卒)

平成31年3月2日、横浜駅西口のホテルキャメロットジャパンに於いて、新たに同窓会・刀城クラブ会長となられた白倉賢二先生(昭50卒)のご参加を得て、刀城クラブ神奈川支部総会・懇親会が開催されました。本年度も刀城会事務局のご協力を得て298名の支部会会員へ総会の連絡を行いました。今回、荒川浩一群馬大学小児科教授(昭58卒)の講演を企画したことから、特に神奈川支部の小児科関連の会員の方々に直接お声をかけ、参加者は一昨年度、昨年度よりさらに増え、平成世代が8名と初参加8名

と計27名の参加を得ました。

式次第は、まず白倉新会長から群馬大学の特定機能病院の再承認という嬉しいニュースをご紹介いただき、同窓会の今後のあり方についての豊富をお聞かせいただきました。

荒川教授のご講演では群馬大学の研修医リクルートに関する院内の対策や小児アレルギーに関する最新の知見についてお話しいただき、活発な質疑応答がありました。今後も大学からや神奈川支部でご活躍いただいている先生方の講演を依頼させていただき、会員の親睦を図っていければと願っています。

なお、会の後日うれしいニュースとして当日ご参加いただいていた元国立感染症研究所長・渡邊治雄先生(昭50卒)から瑞宝重光章受勲のお知らせがありましたことをお伝え申し上げます。



刀城会クラブ神奈川支部総会(平成31年3月2日 横浜駅西口ホテルキャメロットジャパン)
後列左より：武内宏之、長堀優、田中信正、江畑俊哉、都筑馨介、渡邊治雄、鈴木仁一、安井将人
中列左より：高橋正純、原野浩、関野長昭、遠山芳樹、藤本修平、古橋彰、和田裕千代、松村望、
北島麻衣子、船津屋拓人、瀬崎壮一
前列左より：佐藤正純、大沢伸孝、小原甲一郎、荒川浩一、白倉賢二、吉田孝人、乃木道男、丸山甫

刀城クラブ栃木県支部 令和元年総会

野口 忠男 (昭41卒)

令和元年6月29日、刀城クラブ栃木県支部総会を開催しました。会に先立ちこの1年に逝去された天谷博先生(昭25卒)、佐藤倅也先生(昭41卒)のお二人のご冥福を祈り黙祷を行いました。

益田澄夫会長の挨拶の後、会務を進め終了しました。

本日の講演は「進行胃がんに対する腹腔鏡下手術からロボット手術まで」という演題で、同窓の獨協医科大学第一外科小嶋一幸教授(昭62卒)のお話を

拝聴しました。

その後懇親会に移り遅くまで色々な話題に時を忘れました。今年は若い先生の出席が多く賑やかな会になりました。

出席者は大根田紳(昭25卒)、益田澄夫(昭32卒)、荒井良(昭35卒)、伊澤四郎(昭36卒)、上地弘二(昭38卒)、徳江章彦(昭39卒)、竹澤久武(昭40卒)、大和田恒夫(昭41卒)、野口忠男(昭41卒)、柳田千代雄(昭46卒)、久保川透(昭49卒)、石川三衛(昭50卒)、柳田通(昭51卒)、木村孔三(昭52卒)、小嶋一幸(昭62卒)、古橋佳史(昭63卒)、上野修一(平6卒)、増田典弘(平6卒)、山口悟(平7卒)、鈴木慶一(平7卒)、中島政信(平10卒)、以上の21名です。



刀城クラブ栃木県支部令和元年総会(令和元年6月29日)

前橋支部総会報告

前橋支部長 山田 邦子 (昭44卒)

令和元年7月11日に、前橋支部総会と講演会が行われました。場所は、改装され新緑の中爽やかな医学部基礎大講堂でした。総会では2018年度事業報告が承知され、2019年度事業計画が承認されました。

引き続き行われた講演会は、群馬大学医学部附属病院外科診療センター長・同医学研究科総合外科学講座主任、調憲教授にお願いしました。

調先生のご略歴の一部では、昭和61年九州大学医学部附属病院(第2外科)に研修医、この時に桑野博行前群馬大学教授のご指導を受けられたそうです。平成27年11月 群馬大学大学院病態腫瘍制御学講座(旧第1外科)肝胆膵外科分野教授

平成29年4月 群馬大学大学院総合外科学講座(組織改編に伴う)肝胆膵外科分野教授

平成30年4月 群馬大学医学部附属病院外科診療センター長(桑野博行教授の後任)群馬大学医学系研究科学講座主任教授

医療事故報道の1年後に、群馬大学に教授として赴任されてからの3年半は、想像を絶するご苦労があったと推測されますが、講演会は、外科医の倫理観から「奴雁」も含めて始まり、学生会員も含めて約50名が心酔して聞き入りました。

今年になり、群馬大学附属病院は、4月に特定機能病院再承認、7月にはがん診療連携拠点病院が再指定されました。この激動の4年間を全力で新しい外科診療センター・外科学講座を築き上げられた教授です(図1)。

調教授は、県内22関連病院の医会員204名と面談し、オール群馬の群馬大学総合外科学講座を開講し、外科医の育成に尽力されました。群馬手術手技研修センターの開設、外科研修医の大幅増、外科入局者数回復と、連日上毛新聞に前向きな記事が掲載されて

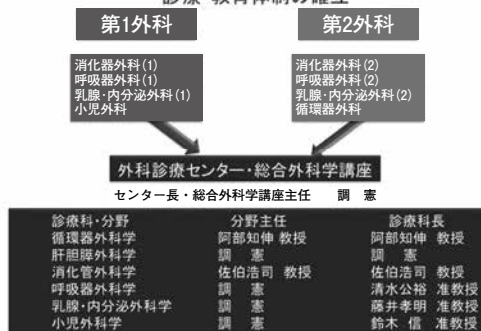
います。

講座では若手医師の積極的な研修を支援し、昨年は、新木健一郎助教(平15卒)は、日本肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能専門医と、日本内視鏡外科学会技術認定医(肝)に認定されこれは群馬県初で、ダブル認定は全国でも20名(当時)のみという高難度の専門医が育っています。多くの若手医師が研修に出張し、着々と成果を上げています。

日本内視鏡外科学会については、腹腔鏡下肝切除技術認定(群馬県初)の評価もあり、昨年、修練施設Aを再認定されています。

医療安全への取り組みで目覚ましい改革を進めている群大病院は、医療安全の規範となり、近い将来多くの医療機関が「群大病院に学ぶ」として医療の改革を実現していく事を期待すると提言されました。群馬大学が手本となり、リーダーとして医療向上につながる事を期待する講演会でした。

図1 群馬大学外科の診療科・講座の統一による診療・教育体制の確立



講演会



前橋支部総会 (令和元年7月11日 水芭蕉)

クラス会だより

43クラス会の報告

幹事 重城 明男 (昭43卒)
鈴木 洋 (昭43卒)

卒業してから51年と長い年月が経過しました。一年半振りのクラス会は、平成31年4月7日東京駅丸ノ内北口に面したOAZOビル、イタリアンレストランのアマルフィ モデルナにて開催されました。新幹線を遠距離を厭わず出席して下さる仲間もいるため、最近のクラス会は東京駅周辺が多くなっています。22名の出席でした。

昨年叙勲された永井伊津夫君のお祝いを兼ねてクラス会となりました。

全ての級友が後期高齢者に突入してからの初めてのクラス会です。

出席できる人は元気な人ですが、やはり腰痛、膝関節痛をはじめ癌の治療中、解離性大動脈瘤の術後、横紋筋融解症による腎不全等々いろいろな病気持ちの人が当たり前のようになりました。のんびりと仕事をしている人が多いのですが、それでもバリバリの現役の人、診療所を新規開業や欧州の精神科医と協力のためヨーロッパデビュー予定など、まだまだ進歩し続けている人など多士済々でした。

永井君は、地区医師会長など地域医療への貢献が評価され、叙勲されましたのも内助の功があればこそと、奥様にも出席をお願いしたのですが、体調を崩して欠席となり日頃のご苦勞を労うことができずに残念でした。

あまりにお会いできる機会がない方とお会いして、顔を思い出せないほど容姿が変わることに驚きもしましたが、会が進むにつれ、学生時代の昔話に花が咲き、青春の真ただ中にタイムスリップしたように、甘く楽しい時間を過ごすことが出来ました。



43クラス会 (平成31年4月7日 アマルフィ モデルナ)

後列左より：浦田、鶴野、平嶋勇、平嶋昇、野村、小島、鈴木、横森、深町、駒井、本間

中列左より：岡野、津久井、永井、山室、最上

前列左から：大竹、重城、阿美、伊勢田

三三会クラス会だより

堀口 佳男 (昭34卒)

昭和34年卒の三三会クラス会が平成31年4月13日に、ホテルメトロポリタン高崎で開催されました。本年は記念すべき第60回となりました。我々の年齢から察して第70回はおそらく不可能かと思えます。(実際は34年卒ですが、さんざん勉強?、さんざん遊んだという事で、33年度にちなみ三三会となづけ卒

業以来、毎年かさねず開催してまいりました。以前は、伊香保温泉等でおこなってきましたが、昨年から遠方からの人の便を考慮して高崎での開催となりました。)

同級生の卒業時は61名、現在はそのうち31名が何とか生存しております。当日はそのうち15名が参加し、東京や栃木県、埼玉県、最も遠方からは静岡県から渡辺脩助君がはるばる参加いたしました。

会はず物故者に対しての黙とうより始まり、約3時間和やかに行われ、来年も何とか全員が元気で参加をと念じて散会となりました。



三三会クラス会 (平成31年4月13日・ホテルメトロポリタン高崎)

後列左より：堀口佳男 関根貢 浦野恭

中列左より：大木一郎 山崎統四郎 五十嵐俊弥 富澤貴 大澤伸孝

前列左より：乃木道男 佐藤祐司 齋藤和子 宮崎英智 野上保治 渡辺脩助

臼井龍は遅れて参加

著書紹介

後藤文夫著

「高齢期の痛み」緩和術：体を鍛えて痛みの緩和から脳の老化予防へ

麻酔神経科学

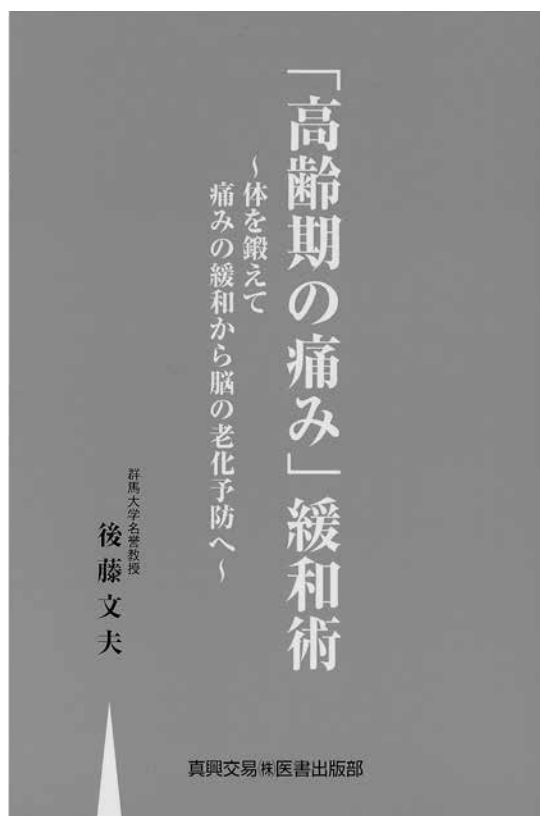
教授 齋藤 繁 (昭61卒)

群馬大学名誉教授、日本麻酔科学会ならびに日本ペインクリニック学会名誉会員後藤文夫先生が前作から2年の歳月を経て、『「高齢期の痛み」緩和術：体を鍛えて痛みの緩和から脳の老化予防へ』を発売されました。前作に引き続き真興交易医書出版部からの神経障害性要素を持つ痛みに関する書籍です。北里大学、群馬大学の両大学で麻酔科教授を担当された期間にもペインクリニックや疼痛緩和の研究、教育、臨床のそれぞれにおいて大きな成果をあげられた後藤先生ですが、群馬大学大学院医学系研究科長・医学部長などを歴任され、ご退任後も福島県白河市太陽の国病院院長として高齢者医療の現場ならびに病院運営に取り組みされました。太陽の国病院でのご在任中には地方山村での高齢者医療に深く関与され、社会医学的な課題にも地域の権威者として取り組まれています。そして、現在は群馬大学名誉教授、日本麻酔科学会ならびに日本ペインクリニック学会の名誉会員として、引き続き現場医療ならびに私を含め後進の指導等に当たっておられます。

現役時代の所属学会である日本麻酔科学会、日本臨床麻酔学会においては循環管理系の研究成果で日本麻酔科学会・山村記念賞、日本臨床麻酔学会・小坂記念賞などを受賞されていることからもお分かりいただけるように、その研究意欲には特筆すべきものがあり、正確な知識の普及にも熱い意欲を見せて来られました。特に、現役時代の終盤からはペインクリニックや緩和医療などに精力的に取り組まれ、日本ペインクリニック学会の第33回大会長も担当されています。そうした活動を反映して、麻酔全般に関する多数の教科書執筆に加え、痛みの治療に関する書籍も多数ご執筆されました。一般社会人向けの書籍として、「神経障害性疼痛の緩和術：神経の痛みを癒す知恵：2017年真興交易医書出版部」、「超高齢者医療の現場から：2014年中公新書」、「痛みの治療—頭痛、腰痛からがんの痛みまで：2002年中公新書」、

「漱石・子規の病を読む：2007年上毛新聞社出版局」、「医原性疼痛—医療ミス・治療行為による痛み：1997年主婦の友社」などが代表図書で、これら全てが痛みの治療と関連を持つものです。

前々書「超高齢者医療の現場から」は、白河市太陽の国病院にご勤務中に経験された症例をもとに、本邦の医療システム、社会情勢に関して深く洞察された書籍で、前書「神経障害性疼痛の緩和術：神経の痛みを癒す知恵」は、大学在職中の学者としてのスタンスに戻られ、生理学、薬理学の視点から執筆されたものでした。今回は、両書を融合させ、前半は高齢者に特徴的な痛みの公衆衛生学、生理学を、後半は高齢者を慢性痛患者にしないための養生法を解説されています。ご本人の健康長寿成功体験ならび今後の方針をもとに書かれているので、非常に現実味のある内容となっています。一般の方にも十分理解でき、実践可能な内容ですので、医療関係の方にとどまらず広く中高年の方々に読んでいただきたいと思います。これまで同様に、ご執筆にあたって最新の情報を取り入れることを心掛けられており、引用文献も極めて新しいものです。根拠の乏しい、執筆者の思い入れに傾きすぎの健康指南書が多いため、極めて信頼度の高い著作として自信を持って推薦させていただきます。



真興交易医書出版部 2019年4月15日発行
定価 本体2000円+税 ISBN978-4-88003-232-0

寄稿

養心寮の思い出

松本 修一 (昭32卒)



養心寮は、前橋市才川町に在った。木造二階建ての北寮、木造一階建ての中寮南寮と食堂棟からなる、群馬大学男子寮であった。従って入寮者は医学部、学芸学部、工学部の教養課程の学生が入寮していました。浴場は無く近くの銭湯を利用していました。

私は、医学部2年生の春から4年生の12月まで縁あって入寮させて頂きました。私が入室したのは中寮の北側の部屋で北寮南面の部屋はよく見えました。

当時寮には、岩沢、牛久保、近藤、柿沢、武田、瀧、田中、田代、古谷、堀内、益田、松本、布施、吉田と同級生が在寮し皆良く勉強に励んでおりました。

寮生活に幾分なじんで来た或夜、夜更けてベットに入ろうかと考えていた時、北寮二階の窓が開けられる音がしたと思ったら、驟雨の降り出す音がするのに気付く何事ならんと北寮二階を見ると、二階の窓から気分よさそうに放尿している姿を見せられました。北寮の前には物干場があり、取り込み忘れた衣類が風ではためいているその上に驟雨は降りかかってました。終わると窓がガタガタピシャリと閉じられ消燈されて終わりです。逆光なので誰とも確認は出来ませんでした。目を疑う光景でした。中寮北側の部屋に在住中に数回見せられました。

養心寮では寮役員「寮長・会計委員長」は医学部3年生がやると言う不文律な取り決めがあり2年生の暮れに、同級生が集まって役員を決める事とした。医学部の3年生はポリクリが始まる大切な学年で、誰も進んで引き受ける人もなく揉めるだろうと思っていましたら、男気を出した瀧君が、俺が寮長をやる。但し会計委員長は松本君がやると言われ驚きました。役員をのがれた同級生は誰も反対する者もなくすんなり決まってしまいました。

会計委員長の仕事は①寮費の徴収②食券の販売③買い集めた食材の代金の支払い④厨房の主の月給の

支払いであったでしょうか。一番手を焼いたのは、寮費の徴収で食券を購入に来た折に支払ってくれると有難かったが、食券の購入費だけしか金を用意しなかったのが、寮費は次回にして下さいと言われる方が多かった。仕方なく日曜日の早朝、寮生の部屋を集金に巡る事になりました。此事は寮生の意外な姿を目にする事になりました。某氏の扉をノックして開扉した所、壁一面に他人様の表札が並べられているのに驚きました。此をどうするのですかと問うた所、飯盒炊飯の時の燃料に使用するのだとの事でした。3年生の時、野球部の納会が街中の東郷料亭で行われた事がありました。散会になった午後10時頃に東郷料亭の大看板を見て帰りましたが、日曜日の早朝、表札男の部屋に集金に行った所、東郷料亭の大看板が壁にぶらさがってました。此男の盗癖は治らないのだと驚きあきれました。此男が大学卒業後どんな人世を送られたか折があったらお話してみたい想いがします。某氏の扉をノックした所、在室しているはずのない女性の声の返事があり扉を開けた所、二段ベットの上から女性の顔がニューッと出てきたのには驚かされました。退寮ものだぞと頭の内は種々の考えが回転しましたが、同室の男とは仲よしだったので不問にしました。役員になったからには何か新しい事をやってみたくと瀧君と相談し、寮生の親睦を深める目的で、第一回養心寮祭を行った。三寮対抗戦の形式で、囲碁将棋大会、バレーボール大会、ソフトボール大会、自転車遅乗り競走をやって楽しみました。そんな時の夕食の副食は予算オーバーで用意しました。それが何処から漏れるのか夕食券の投入率は高く、食堂は、満席になりますし会話もはずみ楽しい一刻でした。冬の寒い夜、後輩寮生から、飲みに行きませんかとさそわれ連立って飲みに行きました。誘ってくれた男の行きつけの飲屋で1次会、2次会、3次会と飲み、そろそろ上がりかなと思ったら4次会行きましょう。と外出して行ったので、会計を済まして、彼の後を追った所、路上に寝ている人が居るのに気付いた。この寒さに何処のアホが寝ているのかとよくよく見たら、なんと4次会やろうと先に出て行った男だったのには驚

きあきました。私より大きな男で寮まで背負って帰ることは不可能ですのでタクシーを呼んだ所、運転手が言うのには嘔吐されると、一晩の稼ぎがパーになるから、その補償をしてくれるなら運びましょうとの事。放置しておけるものでなく寮まで運んで頂きました。自分の酒量がわからない男の失態です。異様に高価だった酒代は連れて行ってくれた男の借金も含まれていたのにはあきました。後輩と呑みに行く時は、懐は十分ゆとりを持たせておかないと不都合が起きると言う事を知りました。でも、道に寝込んでいた男は、気持ちの良いくめぬ男でした。私とは長い付き合いになりました。

郵便物は、全て食堂内にある郵便受けに投入されているので食堂に行った時には、必ず目を通してやる様にしていました。ハガキの郵便物は全員に読まれてしまう恐れがあります。たまたま、私が目にしたハガキには「貴方の子供が産まれた」の一文があり、結婚している寮生も居るのかと驚きました。食堂内にある掲示板には、医学部先輩が試験の終わった教科の参考書を売りに出されている事がありました。かなり安価だったと思います。購入してみると赤線の一杯引かれた参考書が入手できました。読んでみると先輩のかけた山も推測出来るので楽しく読みました。

当時の食事はひどいもので三食食べても補食しなければ空腹は満たせませんでした。ちなみに、朝食券25円、昼食券15円、夕食券35円だったと思います。当時「ラーメン」が30円の時代でした。補食しなくてもすむ程度に食事の質量Upを計画し寮生に申告

した所、医学部学生はOKしてくれましたが、一部の学生から「私達は入寮させて頂いてますが、食券を買う金はなく、実家より米を持参し毎食飯盒炊飯をして食べているので、食券の値上げには反対です」と言われ、ゴリ押しに食券の値上げは出来ず、食事の質量のUpは出来ませんでした。しかし、現実はず変わらず空腹感はずれず私達も飯盒炊飯をやる事になり、食堂の2000wの電気コンロの前は、常に飯盒が並ぶ様になった。

寮生は、全く多士済々で医学部入学と共に入寮、家庭教師を開始し実家より一円の送金もなく医学部を卒業して行った豪の者もありました。私の所に食券購入に来ていた人の中から、4名の寮生が医学部教授になられたのは嬉しい事でした。

学芸学部の方々の中からも、教授、学校長、教育委員長になられた方が多数いらっしゃる事と思いますので、時間を作って養心寮の昔話が出来たら、さぞ楽しい事とおもいます。飲み交わす酒は、純米大吟醸の美酒で飲みたいものです。

寮生の心配は大学の試験だけで、その他は勝手気ままな自由奔放な生活で、大学とは役員交代の時一度接触があったきりでした。

上記の如き奔放な生活は二度と味わえないものでした。と記して終わりとしましょう。

追記

呑龍マーケット

前橋市内に在った赤ちょうちんの飲み屋で

安価で飲ませてくれたので寮生には大人気だった。



寮祭 囲碁大会の風景



寮祭の日の食堂風景

財団のページ

本年度の助成金応募採択状況と 次年度の募集について

公益財団法人群馬健康医学振興会
常務理事(業務担当)

中里 洋一 (昭47卒)



公益財団法人群馬健康医学振興会(当財団)では公益目的事業の一つとして助成金の交付を行っております。平成31年度(令和元年度)助成としては研究助成と海外留学助成について公募し、それぞれ6件と1件を採択して助成金を交付しましたので、その応募・採択結果についてお知らせします。また、令和2年度も同様に助成金を公募しますので、ふるってご応募くださるようお願いいたします。

I. 平成31年度(令和元年度)研究助成

当財団の平成31年度(令和元年度)研究助成については、総額200万円程度、募集件数概ね5件の規模で、平成30年10月1日より平成31年2月末日までを応募期間として公募いたしました。その結果、26件の応募がありました。当財団の「研究助成選考に係る申し合わせ」に基づいて1次審査を行い、14件の応募課題を選抜しました。2次審査は10名の選考委員によって行われ、その審査結果は5月末の理事会において審議され、審査成績上位6件の研究課題を採択することが決定されました(表1)。助成金額はいずれも1件30万円であり、8月初旬に研究代表者へ助成金が交付されました。

表1. 平成31年度(令和元年度)研究助成金採択者一覧

採択者氏名	勤務先・職名	研究テーマ
富田 洋介	高崎健康福祉大学 保健医療学部 理学療法学科 助教	光学式および慣性センサー式3次元動作解析装置を併用した全身運動学モデルの妥当性検証
六代 範	群馬大学大学院医学系研究科 病態腫瘍薬理学 講師	扁平上皮がんにおけるバイオマーカーと分子標的治療法の探索
須永 浩章	群馬大学大学院医学系研究科 循環器内科学 研究員	左室駆出率の保たれた心不全患者の心筋エネルギー代謝に関わるバイオマーカーの検討
中村 和裕	群馬大学大学院保健学研究科 教授	間葉系幹細胞治療後の脊髄損傷マウスの感覚障害の定量的評価法の開発
石井 角保	群馬大学大学院医学系研究科 講師 応用生理学分野	新規SLC12A3遺伝子変異によるGitelman症候群の病態解明
澤田 悠輔	群馬大学医学部附属病院 救命救急センター 医員	群馬県における遺伝性血管性浮腫(HAE)患者探索のための前向き調査

II. 平成31年度(令和元年度)海外留学助成

当財団の海外留学助成は平成30年度から開始されましたが、平成30年度は残念ながら応募者がありませんでした。そこで平成31年度は海外留学助成制度についての周知を図るため、当財団のホームページや刀城クラブ会報などを通じて広報活動を行いました。その結

果、募集期間内に3件の応募がありました。募集要項及び「海外留学に係る申し合わせ」に基づいて慎重に審議し、5月末の理事会において1件の応募を採択することが決定されました(表2)。助成金額は1件50万円であり、8月初旬に採択者へ助成金が交付されました。

表2. 平成31年度(令和元年度)海外留学助成金採択者

採択者氏名	勤務先・職名	研究テーマ	留学先
堀内 辰男	群馬大学大学院医学系研究科麻酔神経科学 助教	肥満細胞を用いたin vitro検査によるアナフィラキシー原因薬剤の同定	University of Antwerp, Laboratory of Immunology, Belgium

III. 令和2年度研究助成金及び海外留学助成金の募集

令和2年度研究助成金を下記のとおり募集します。

1. 応募資格: 群馬県内又は近郊に、勤務する医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、理学・作業療法士、保健師、社会福祉士、その他の保健、医療および福祉

関連職、教員、団体等が年度内に行う研究または事業であって、以下の群馬健康医学振興会の設立の趣旨に則った活動であること。

- (1) 健康医学調査・研究活動
- (以下、次ページの下段へ)

財団のページ(研究助成報告書)

研究テーマ『群馬県内の結核患者における免疫再構築症候群の解析(平成29年度助成)』

群馬大学医学部附属病院
呼吸器・アレルギー内科

助教 古賀 康彦



【報告書】生物学的製剤使用下で発症した結核において、その治療中に病勢増悪を呈することがあり、いわゆる初期悪化とされてきた免疫再構築症候群が、結核治療の問題となってきている。本研究では前橋赤十字病院の蜂巢克昌医師と共に、2005～2016年までに群馬大学医学部附属病院で肺結核と診断された188症例を対象として免疫再構築症候群の発症因子を検討した。免疫再構築症候群の発症は7例(3.7%)であった。全188例のうち生物学的製剤使用例(全てTNF- α 阻害剤)は4例で、そのうち免疫再構築症候群の発症は2人(50%)と高く、TNF- α 阻害剤の使用が優位に免疫再構築症候群発症のリスクを高めていた。今後、さらに多種多様な生物学的製剤が登場することで、結核治療における生物学的製剤使用下での免疫再構築症候群の治療・管理が重要になってくると思われる。

研究テーマ『認知機能低下に伴うシナプス形態変化の脳内イメージング解析(平成29年度助成)』

群馬大学大学院医学系研究科
神経薬理学

准教授 花村 健次



【報告書】アルツハイマー病で神経変性に先行して興奮性シナプス後部でタンパク量が減少すると考えられているアクチン結合タンパク質ドレブリンについて、そのノックアウトマウス(DXKOマウス)等とThy1プロモーターの下流に蛍光タンパク質YFPを発現するトランスジェニックマウスを掛け合わせ、大脳皮質5層の錐体細胞等一部の神経細胞を可視化したDXKOマウス等と野生型マウスを作製して実験に用いた。22週令以降に深麻酔下で大脳新皮質体性感覚野の観察領域上部の頭蓋骨を薄く削り、二光子励起レーザー顕微鏡により1層内の樹状突起スパインを生きている状態で観察している。そして一定時間後に同じ領域を再び同様に観察することで樹状突起スパインの密度や安定性を解析しつつあり、今後も継続して研究を進めていく予定である。

(前ページより)

- (2) 健康医学普及・社会貢献活動
- (3) 健康医学国際交流・研究活動
- (4) 医学系学生の健康医学実習
- (5) その他、保健・医療・福祉の向上に貢献する活動
2. 募集人員及び助成金額：募集人員は概ね5件、助成金額は総額200万円程度とする
3. 募集期間：令和元年10月1日から令和2年2月末日まで
4. 研究期間：助成金受領後概ね1年間

5. 応募方法：応募者は、研究助成金申請書(書式は当財団ホームページよりダウンロードできます)をメールにて財団事務局に提出のこと。なお、電子データ以外の資料は郵送のこと。
6. 採択決定及び公表：令和2年7月上旬
- (1) 研究終了後、研究助成報告書を提出のこと
- (2) 研究助成報告書の概要は刀城クラブ会報に掲載します
7. 助成金交付：令和2年8月上旬
8. その他

令和2年度海外留学助成金を下記のとおり募集します。

1. 応募資格：応募にあたっては、次の各号を全て満たすことを条件とする。
 - (1) 医学、医療及び福祉の領域の従事者
 - (2) 一定の研究業績を有する研究者で、群馬県に在住又は勤務若しくは将来群馬県の医学、医療及び福祉の発展に寄与しうる者
 - (3) 助成金支給年度の4月1日現在40歳未満の者
 - (4) 選考委員会により最終候補者として選出された時点において、他の団体、機関等から総額200万円を超える奨学金を受けていないこと
 - (5) 採択決定後、1年以内に渡航すること
 - (6) 原則として、海外の研究機関等に6か月以上滞在して研究すること
 - (7) 帰国後、6ヶ月以内に海外留学研究助成報告書を提出すること
 - (8) 海外留学中の研究成果を発表する場合、本助成金の助成による旨を書き添えること
2. 募集人員及び助成金額：募集人員は原則1人、助成金額は1人当たり50万円とする
3. 募集期間：令和元年7月1日から令和2年2月末日まで
4. 応募方法：応募者は、次の各号の書類をメールにて財団事務局に提出のこと。なお、電子データ以外の

資料は郵送のこと。

- (1) 海外留学助成金申請書(書式は当財団ホームページよりダウンロードできます)
- (2) 留学先施設の受入承諾又は申請中であることを証するもの(様式任意、コピー可)
- (3) 所属長又は研究指導者による推薦状
5. 採択決定及び公表：令和2年7月上旬
6. 助成金交付：令和2年8月上旬
7. その他
 - (1) 採択後、採択者が辞退した場合は、繰り上げて採択することがある
 - (2) 応募資格の各号に抵触する場合は、本助成金を取り消すことがある
 - (3) 海外留学研究助成報告書の概要は刀城クラブ会報に掲載します。
- IV. 助成金に関する問い合わせ先
公益財団法人群馬健康医学振興会事務局
〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目39-22
群馬大学医学部刀城会館内
TEL027-220-7873 / FAX027-235-1470
E-mail: gfmhs-jimu@ml.gunma-u.ac.jp
ホームページ：http://tojowww.dept.med.gunma-u.ac.jp/zaidan/

叙 勲

瑞宝重光章 渡邊 治雄 先生(昭50卒)

学 内 人 事

【昇任】

平成31年4月1日

矢島 俊樹(平9卒) 先端腫瘍免疫治療学講座
准教授

令和元年7月1日

清水 公裕(平5卒) 大学院医学系研究科呼吸器
外科学准教授

お詫び

前号254号において、矢島俊樹先生の所属に誤り
があり再掲しお詫び申し上げます。

役員会だより

第5回役員会(令和元年5月23日)

出席者 白倉会長 他20名

報告事項

1. 法人のその後の活動について
2. 太田・館林・邑楽支部総会について
3. その他

協議事項

1. 令和元年度同窓会「総会」及び「全国支部長・
支部代表者会議」実施要項(案)について
2. 令和元年度地域医療貢献賞実施要項(案)につ
いて
3. 学術集会補助金について
4. 北関東医学会評議員候補者の推薦について
5. 会報編集状況について
6. その他

第6回役員会(令和元年6月27日)

出席者 白倉会長 他19名

報告事項

1. 法人のその後の活動について
2. その他

協議事項

1. 令和元年度収支予算書(案)について
2. 会報編集状況について
3. 刀城クラブの法人化について
4. その他

第7回役員会(令和元年7月25日)

出席者 白倉会長 他23名

報告事項

1. 法人のその後の活動について
2. 前橋支部「総会・講演会・懇親会」について
3. 山梨支部総会について
4. 高崎支部総会について

5. その他

協議事項

1. 平成30年度収支決算書(案)について
2. 令和元年度地域医療貢献賞候補者の推薦について
3. 令和元年度事業計画(案)について
4. 学術集会補助金について
5. 会報編集状況について
6. 北関東医学会評議員候補者の推薦について
7. その他

謹告

ご逝去の報が同窓会事務局に入りました。
ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

正会員

- 昭和25年卒 高野 輝子先生(平成22年1月15日逝去)
- 昭和39年卒 五十嵐龍蔵先生(平成30年5月15日逝去)
- 昭和39年卒 高橋 浩史先生(平成31年2月7日逝去)
- 昭和24年卒 逸見 和雄先生(平成31年3月5日逝去)
- 昭和24年卒 鈴木 俊男先生(平成31年4月8日逝去)
- 昭和32年卒 橋本 隆先生(平成31年4月18日逝去)
- 昭和47年卒 前田 輝雄先生(令和元年5月7日逝去)
- 昭和29年卒 河田 隆信先生(令和元年5月22日逝去)
- 昭和34年卒 山田 晴彦先生(令和元年7月7日逝去)

編集後記

群馬県庁北の‘さちの池’付近から
北橋町(旧・北橋村)の17号交差
点まで、利根川の東の河川敷を走る通称・国体道路
では、前橋の折々の風物に触れることができます。春
は桜、初夏には鮎の釣り人、空っ風の時期には凧揚
げ大会、そしてなんととっても、夏の前橋花火。利
根川の対岸から打ち上げられる花火を間近に見よう
と、歩行者天国になる国体道路に大勢の人が集まり
ます。今年は前橋花火につきものの夕立もなく、夜空
に大輪の花が咲く様子を最後まで楽しむことができ
ました。前橋の花火大会は昭和23年に「復興際」とし
て第1回が行われたのがはじまりとのことです。昭和
20年の前橋空襲、22年のカスリン台風被害などを経
て、当時の前橋は戦災や災害の傷跡も生々しい中で
あったことでしょう。花火に込められた先人の皆様方
の様々な願いに、想いを馳せさせられます。その後、
昭和34年のご成婚を記念してさちの池が、昭和58年
のあかぎ国体開催時には国体道路が整備され、平成
に入ってからグリーンドームや群馬県庁新庁舎など
が利根川河川敷の風景の一部となりました。時が移り、
川面に映る景色は変わるなか、利根川は今日も国体
道路の横を悠々と流れています。(菊地 麻美)

編集委員

福田利夫(昭51卒)、平戸政史(昭
53卒)、藤田欣一(昭56卒)、安部
由美子(昭57卒)、大山良雄(昭63卒)、菊地麻美
(平7卒)、星野綾美(平13卒)、高橋慶一郎(6年)、
板垣由宇也(5年)、大玉浩嗣(4年)、佐藤聖佳(4
年)、中島拓海(2年)、成瀬豊(事務局)、清水ち
とせ(事務局)